

泉州国際市民マラソン 第10回大会 2003年(平成15年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 10th CONVENTIONS



2月16日
天 候: 雨
気 温: 9℃
参加者数: 2,917人
完走者数: 2,243人
沿道人数: 22万人

本年度で10回を数える泉州国際市民マラソンは関西地方屈指の「国際市民マラソン」となり、泉州路に根付いた最大のイベントになった。エリートマラソンである大阪国際女子マラソンは、今年(平成15年)22回目を数えているが、幹線道路を閉鎖して行われる市民のフルマラソンは大阪ではこの大会だけである。10回大会ではじめて陸連登録者の部と一般市民ランナーの部とに分け大阪陸上競技協会の主管により、日本陸上競技連盟公認のお墨付き大会となった。3度目となる今回のコースは、ほとんどが市街地であることで声援が絶えまなく続き、走りやすいとの評判も行き渡り、3000人の老若男女が全国各地から集まった。

今回の招待選手は2時間10分08秒の記録をもつディクトンRCの砂田貴裕や城西大監督の平塚潤のほか、SB食品の渡辺康幸が注目された。女子ではエスタ・ワンジロ・マイナ、7回大会優勝の安部友恵、浅井えり子など豪華な顔ぶれとなった。

レースは朝からの雨をついて前半から抜け出した服部元康(大塚製薬)が、第2位の荒川裕介(山陽特殊製鋼)を2分以上引き離し、2時間16分43秒の好タイムで初優勝に輝いた。第3位は大塚製薬の白石真が入った。

女子では、シドニーオリンピック、ケニア代表のエスタ・ワンジロ・マイナ(資生堂)がスタートから抜き出て独走、2時間42分32秒の記録で優勝に輝いた。第2位は9回大会優勝の松本晴美、第3位は1回大会優勝の45歳の黒崎しのぶが地元の声

援を受け、持ち前の頑張りをみせた。期待の安部友恵は故障上がり状態であったため、マイペースで泉州路を駆け抜けた。招待選手の浅井えり子は第6位だった。今年も75歳の山田敬戒や高石ともやらが元気な走りを見せ、22万人の観衆の声援にこたえた。

これまでの10年間の実績は、関係者の汗の結晶であり、「泉州にマラソン大会を」との思いが泉州の活性化と国際交流のまたとない機会を生んだ。

世話をして咲く花は美しい。「泉州はひとつ」のスローガンのもとに、往年のマラソン大会の老舗として醸成し、10年間の栄養を育みながら、春を告げる“泉州の華”として開花した。



大会前日のレセプションで特別招待選手が勢揃い

10周年の
ゴールド
大会・ワ
トソン
の祝いの
挨拶
会長が



2003年(平成15年)2月17日付朝刊



完走し疲れ、冷え切ったランナーたちにとって温かい豚汁はなによりのごちそう



今年もだんじり囃子で
ランナーたちを応援

(第三種郵便物認可)

2003年(平成15年)2月17日(月曜日) 訂立

鹽 桑 斤 州

泉州国際市民マラソン

早春、泉州路を市民シンナーが駆け抜けた。十六日開かれた第十回泉州国際市民シンナー（同実行委員会主催、読売新聞大阪本社など後援）の最高気温は一度の冷たい雨の中、国内外から参加した約三千人が次々と坪子をタートル、泉佐野市のゴールを目指した。白い息を吐き、水しぶきを上げての力走に、沿道の観衆は小旗を振り、「ガンバレ、ガンバレ」と盛んに応援を送った。

いい汗人

大会最高齢七十五歳の山田敬蔵さんは、左足を引きずりながらゴールイン。二百八十六回目のフルマラソン完走を果たした。

タイムはほぼ目標通りの3時間59分36秒。それでも、二千ヶ所地点は1時間40分で通過したが、昨年九月に転倒して痛めた

75歳 286回目完走
山田敬蔵さん

左足がけいれん
ぎからペースが
急変する表情を
五十年前の一
した経験のある
ンに、今年、招
加する。「ボス
るのが目標。多
走り続けたい」



ゴールした最高難ランナーの山田敬蔵さん

して応援。その日の法被に鉢巻き姿で、和太鼓、カネ、笛でチンチキチンとにぎやかな音を響かせた。ランナーらは手を振ったり、ガッツポーズをしたりしながら駆け抜けた。

A black and white photograph capturing a massive crowd of runners at the starting line of the 10th Kansai Prefecture City Marathon. The runners, dressed in athletic gear, are densely packed and filling the lower two-thirds of the frame. Above them, a large, white, semi-circular archway spans the width of the race path. The archway features the text "第10回 関西府県市長マラソン" (10th Kansai Prefecture City Mayor's Marathon) in bold Japanese characters. On the left side of the arch, a vertical banner reads "10th KANSAI PREFECTURE CITY MAYOR'S MARATHON". To the right, another vertical banner displays "KANSAI PREFECTURE CITY MAYOR'S MARATHON". The background shows a clear sky and some distant structures, suggesting an open urban or park setting. The overall scene conveys a sense of a large-scale, organized community event.

3000人

かいた

英語交えあいさつ
堺市の真喜公園では、スタートラインに並んだ参加者を前に、大分県市長の寺田為三・高石市長の寺田為三、高石市長が「事故無く、そう快に走り抜けてください。グッドラック（幸運を）、ドゥーユ

豪選手「いい気分
泉州国際マラソンと師範
の提携を結ぶ。ストリートア
ーティストの大会も、今月
は、今年7月に千五百回
目の節目を数える。昨年
目標のマラソンマッソ
で優勝し、招待されたロ
ン・ビータ選手約10分置
き自己ペースで約49分
2時間36分秒、十六位
だった。雨雲などの要
件を考慮して、まずまっ
たタイム。治癒の声援のお
おかげで走り続けた。
たとえ満足できなかった。

応援も体力勝負
ほほ中間地にあたる
和田市本町の幸田はん

只摩市南門外の泊道でして、くちのがれかゝは、近の同市西小宮小学校の五年級三十人、十二才のルムでがはなれ、着しと走らうとのメッソーを、書いた手紙をはめ、通り過ぎるツナリとヌチ子をおわしなが、面張を送た。サキ番君曰は「ランナカ、ありがう」と言すねと笑みを浮かべ、再びながら、懐の手ハヌチビ走つていった。

ホッとな触れ合い 感激



メッセージを書いた軍手をはめ、一列に並んでランナーとタッチする児童たち（貝塚市豊浜で）

雨の中、走るランナー
たちを声援



優勝

第10回大会

男子

大塚製薬

女子

資生堂

服部元康

エスタ・ワンジロ

・マイナ

